

### 1事業の目的

農業分野における地域未利用有機質資材の利活用を図るため、土壌診断にもとづく地域未利用有機質資材の簡易適正施用技術を開発し、肥料費低減技術の普及及び情報提供を図る。

### 2当該年度の実施事業の概要

地域未利用有機質資材の利活用による肥料コストの低減を図るため、適正施肥に必要な技術開発や普及展示等を進めた。

#### (1)土壌診断に基づく地域未利用有機質資材の簡易適正施用技術の開発

有機質資材の適正施用のための簡易土壌診断技術の開発及び土壌診断に基づく有機質資材の施用量決定支援システムを開発した。

#### (2)地域未利用有機質資材を活用した肥料費低減技術の普及

有機質資材を活用した肥料費低減技術の実証展示ほ設置及び技術の普及定着を図った。

#### (3)技術開発及び技術普及の支援と農家への適確な情報提供

普及指導員等を通じて、農家への適確な情報提供を図った。

### 3当該年度の実施事業の成果

・土壌分析値を入力することにより、簡易に土壌診断ができる土壌診断システム「そいるくん(ver1)」を開発し、誰

でも簡単に土壌診断ができるようになったことから、土壌改善及び生産性の向上につながる。

なお、この成果は、宮城の試験研究の取組成果として、HPにて公開予定である。

・地域未利用有機質資材を活用した現地実証ほ設置(8箇所)を通じ、肥料費の削減や生産性の向上を実証することができた。一方で、有機物の施用量等の留意点も明らかになった。

### 4今後の展開

現地実証ほ設置を通じて明らかになった課題等に留意して、現地への普及を図る。事業は平成24年度で完了。

### 5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果を示す指標の数値

(指標:たい肥センターの家畜ふんたい肥の販売量率((払出量(販売量+自家消費))÷生産量×100))

単位:%

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
66.2	72.3	86.8	93.8	84.5

注)平成22年度の値は、震災の影響により集計できた値による。

注)平成23年度は、生産量が減少したため、見かけの販売量率が向上。

### 6 事業費の推移 (単位:千円)

平成21年度	平成22年度	平成24年度
3,054	2,317	1,969